

令和2年度 第4回沼田市市民構想会議の概要について

1 日 時 令和2年11月11日（水）午後2時から午後3時30分

2 場 所 沼田市役所 防災会議室402・403（テラス沼田4階）

3 出席者

（1）委 員 片桐徹憲委員、井上滋光委員、青木富士夫委員、生方秀二委員、
岡嶋稜子委員、小野里順子委員、田辺裕己委員、角田郁子委員、
六本木勇治委員、林康夫委員、小林好委員、山田龍之介委員、
坂井隆委員、原口庄二郎委員 （14名）

（2）アドバイザー 篠田 暢之 氏

（3）沼田市 五十嵐副市長、川方総務部長
（事務局：矢代企画政策課長、生方政策推進係長、清水副主幹、
黒崎実習生）

4 配付資料

- ・次第
- ・令和2年度第3回沼田市市民構想会議の概要について
- ・アドバイザー・委員提供資料

5 概 要

（1）開 会（事務局：企画政策課長）

（2）会長あいさつ

<生方会長>

立冬を過ぎ、寒さが増しており、風邪などひかぬよう留意いただきたい。

（3）前回の会議結果について（事務局：企画政策課長）

「第3回沼田市市民構想会議の概要について」により説明した。

（4）議 題

1）提言に向けた検討について

<アドバイザー>

提言書をまとめるにあたり、現下のコロナ感染拡大防止の観点から、従来の生活スタイルを変える「新しい生活様式」が提唱され、その実践が求められていますがこの変化は未来の街づくりを根本的に変えると観られています。

感染防止のワクチン開発は、安全性確保の必要性から、専門家は開発完了には、2024年前後まではかかると指摘しています。このパンデミックは「世界同時“鎖国”」状態を生みモノの流れを停滞させ、従来の「グローバル資本主義」を事実上、機能不全に陥れました。グローバル・サプライが停滞している為、多くの国々では日本を含め先行きの見通しが立たないからです。

このため、これまでの生活スタイルを克服する手立てとして「地域主義」が加速します。新しい社会変化による「地域主義」の誕生と加速から今後は地域間競争の条件として「アクセシビリティ」が街づくりのカギとなります。アクセシビリティの重要性は、少子高齢社会の対応にも「人口減少」時代の社会づくりには必要な対策の切り口です。日本語では〇〇への近づきやすさ、〇〇のモノやサービスの得られやすさ、情報や各種サービスに対する利用のしやすさなど、この切り口から各種の議論を深めれば提言書の内容を豊かにすることが出来ると考えます。

一方、沼田市民が「街の主人公」であるとの考え方は、沼田に住む誰もが安全・安心な日々を過ごし、快適で、ストレスフリーな暮らしが生涯にわたり優先されることが重要です。年齢や性別を超えて豊かな人間関係を育み、相互に支えあえる関係が、これまで以上に大切な条件となります。

「主人公」は、瑞巖（ずいがん）和尚の（「無門関」第十二則）言葉です。街づくりの未来は市民が主体的に未来の暮らしを実現する本人（主人公）であるとの自覚が今こそ、必要だと意図から標語としたものです。街の未来を決めるのは、他でもない、広く市民の方々の自覚によるとの想いに立って「主人公」という言葉を提言書に盛り込むよう提起しました。

「少子高齢化」を含め人口減少問題を一気に解決できる特別な措置はありません。重要な視点は「弱者」である子どもやお年寄り、未来の担い手の若い世代への配慮を、地域としてどんなサービスが必要で、それらの優先順位についての議論が求められていることです。

その為にも世代を超えて「健康」な暮らしを可能とする地域あげでの取り組みに知恵を絞る議論が必要です。ステイ・ホームの奨励から、健康生活を自覚され積極的にウォーキングをされる方が増加した点も従来との違いです。高齢者の「健康寿命」を限りなく引き延ばし、QOLを高め生活の質を維持する取り組みが見直されている事も健康生活推進の観点から重要です。

他方「子ども部屋」おじさんと呼ばれる社会現象が問題視され始めましたが、少子高齢化問題のひとつとして理解しておく必要があります。50代に

なっても結婚せず、引きこもっている方を指しますが、そういった方たちを社会として受け入れ、孤立化に拍車を掛けない、議論も必要です。

<テーマに関する意見交換> ～少子高齢化対策について～

○オンラインを使い都市部にいる学生達と非接触型の交流を行っている。若い世代が地元や地域との関係性を築ける環境が整っていることが大事だと感じた。私たちが準備できていることと新しい世代が地域に欲していることの違いを埋められなければ、少子高齢化は止められない。若い世代が地域に対してどのようなことを求めているのかを知ることが少子高齢化対策になる。いろいろな世代と同じ目線で、一人一人が主人公となる環境を整える必要がある。同じ地域に関わる人と人が交流できるような仕組みができると良い。

【アドバイザーから】 子ども食堂の状況について

○子ども食堂は評判が良く、40～50名くらい利用している。多目的で支え合いができています。

【アドバイザーから】 寝たきりの方の状況について

○1人暮らしで身寄りがなく、孤独死するなどのケースは都会の方が多い。自宅で介護を行うより、介護保険施設に入所される方が増えているように感じる。都会の方は費用や施設の受け入れ体制など問題があるが、こちらの地域は施設が多い。

○デイサービスを利用している高齢者は、冬になると入院や入所するケースがあり、デイサービスの利用者が減る傾向にある。

○QOLは健康な状態を保つという考えだが、一方で病気の方の生活の質について、DALY (Disability-adjusted life year) 「疾病や障害による早死にだけでなく、健康的な生活の損失の程度を勘案したもの」という言葉があるが、脳血管障害や心疾患、腰痛などで自立した生活が送れなくなっている人が増えており、そういった人たちをどうしたらよいのかという問題がある。健康志向の面から沼田はウォーキングに適した環境である。また、ロングトレイルなどにより自然に親しみながら山登りをする文化など、楽しみながら取り組める環境作りも必要である。

2) 提言書について

事務局から提言書案及び電子地域通貨の取組について説明

- 一人一人が主人公であるという点は素晴らしいが、それによって街をどうしていくのか、何を目指していくのかを議論する必要がある。地域コミュニティという内向きに考える傾向があり、地域コミュニティ同士の連携や行政との連携などを構築してから事業を実施した方が良い。
提言書にもどんな街を目指すのか、SDGsとの関係について記載する必要がある。経済面ではESG投資といった新しい世界基準の経済評価も見据えながら地域の持続可能性を唱えると良い。市民の暮らしをうまく持続可能な目標に設定すると良い。
- 広報力の発信として、沼田の良いところを外に発信していれば地域に大きな効果がある。自分たち自身の足元が脆弱では外に発信しても感動を与えることは難しい。まずは自分たちのことを良く知る。魅力度ランキングで群馬県は40位であり、人の評価を気にする必要はないが、発信力の差であると思う。利根沼田が観光面で市町村の枠をこえて連携するのは当を得ている。他の社会から多くの情報を受信する受信力も重要であり、発信力と受信力をいかに高めるかが地域社会において喫緊の課題である。
- 具体的な数字がなく、県によって医療費補助等も違っているが、何か比較した方がわかりやすいのではないかと。
介護保険でもボランティアポイントなどが受けられるが「tengoo」との連携はどうか。

【事務局】

今年度は実証実験のため、ポイント等の用意はしていない。本格導入の際にはボランティアポイントや健康ポイントなども検討していく。

- 人口減少問題を止めるのは難しい。沼田市はインターチェンジも近隣に3箇所、新幹線の駅もあり立地条件は恵まれている。交通の利便性は良いが、通過点となっている傾向もある。少子高齢化が続く中で高齢者が元気に暮らす地域づくりは絶対条件となってくる。Go to 効果もあり、家庭需要が伸びており直売所も好調である。農家で年間何百万もの利益を出す人は少ない。年金の足しや生きがいとなっている人も多く、大規模農家との2極化が起きている。鳥獣の被害が増えているので、対策が必要である。
- 地域通貨も内部で連携し、例えば、清掃を一斉にすると補助金などが受けられるが、そういった様々な事業を含めていくのか。

【事務局】

いろいろな事業を加えていくことにより参加者も増えるので今後検討し

ていく。また、多くのところで使えるということが魅力につながるため、利用できる事業者を増やし、市の事業との連携を検討したい。

○地域通貨により経済を潤滑にすることは良いが、使われなければ価値が下がっていく。コロナの関係でキャッシュレスが進んでいるが、高齢者は使えない方も多く恩恵を受けられない人もいる。住んでいる人が楽しめて、若い方が増えるようにつながりを作るのは大事なこと。若い人たちが帰って来やすい、帰って来た方が住みやすい環境作りが大切である。

○「tengoo」に健康寿命を延ばすことを売りにしたポイントを加えて欲しい。

【副市長】

「tengoo」の当初の目的は地域経済の活性化であり、地域内経済循環の量を増やすことでしたが、加えて街づくりの手段としてもうまく活かせるのではないかと考えられる。健康づくりやボランティア活動などにポイントを付けることで活性化につながる。ポイント制度についてはこれからの検討となるが、本格稼働後も維持できるような制度にしていきたいと考えている。

＜アドバイザー＞

広報力は「アクセシビリティ」の観点からも大切な視点です。委員ご指摘の発信力と受信力の観点から、吟味・検討する必要性はご指摘の通りです。そのため提言書も提言内容が発信者と受け手にも有機的なつながりを持つことが大切です。人口減少が進む中で高齢者の方々の健康はもとより身体的な問題にとどまらず、高齢者の心の健康問題も重要です。

南ドイツのバイエルン州やオーストリア、ウィーンの森の周辺では土曜日になると子ども連れの家族や老夫婦、恋人や仲間同士などで森に遊びに行く習慣があり、散歩道の途中には素敵なカフェやレストランがありここで食事やお茶を楽しみ、友人と交流する姿が見られます。こうした取り組みを参考例に、具体的に沼田市でも各種のコース等を設定し、沼田市民に限らず地域外の人々たちに向けても発信すれば、宿泊業や地元での消費活動にもつながると考えられます。総合的な観点からの取り組みを行う提言書をこれまでの議論を基に方向性を持ってまとめる事が良いと思われれます。

SDGsの観点からも、個別具体的な取り組みが分散して理解されないような工夫が求められます。それぞれの提言がつながれば、誰からも理解されやすくなり、読みやすく、提言内容がより実現しやすくなると思います。

今はコロナ禍ですべてが足踏み状態で難しい状況ですが、今後を見据えて、

豊かな内容をまとめられれば、これまでの議論が有益な成果として導き出せると感じました。

3) その他

- ・ 次回の会議日程について説明し、確認いただいた。追加資料等がある場合は事前に送付する。

<第5回> 12月16日(水) 午後2時から

沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証、提言書案について協議いただく。

提言書に関する意見等がある場合は11月20日(金)までに事務局へ

(5) 閉 会 (事務局：企画政策課長)